

静岡県で活躍する医師



静岡医療センター

病院長

岡崎 貴裕 医師

—— 院長に就任してからの現況を教えてください。

岡崎 医師 当院は、遡ること1919年、陸軍病院として創設され、終戦後、海軍工作学校兵舎を使用して現在の地に移り、統合・合併を繰り返しながら現在に至っています。よって、当地域では最も長い歴史を持つ中核病院です。大学病院への医師の派遣の願いはもちろんのことですが、地域の社会状況を織り込みながら、当院の進むべき方向性について、定期的に副院長の先生方とも議論を重ねながら、未来の静岡医療センターの姿を模索しています。

—— リウマチ・膠原病内科を専攻したきっかけと魅力を教えてください。

岡崎 医師 学生の頃、自分がどんな医師になっていけば良いのかわからない不安の中で、医療や医学の本を読んでいた。そこで人間は太古の昔より感染症と外傷との戦いの中で自らの寿命を伸ばしてきた基本的な歴史を知ることとなりました。であれば、人は感染に対する生態防御機構として「免疫」という仕組みを持っているのだから、そのメカニズムを利用できるような医師になりたいと思うようになりました。大学4年生の頃くらいには自分は臨床免疫をやるのだと強く思うようになり、今も臨床免疫を土台に医師をやっています。まあ、単純と言えば単純ですね(笑)。



—— 若手医師との関わりや指導について教えてください。

岡崎 医師 院長となって、臨床よりも経営的な仕事が多くなり若手医師との接触は明らかに減少しています。しかしながら、大学病院にいた頃から、自分自身の医師として辿ってきた道を鑑みて、学生や研修医からの質問は何を聞かれても怒らず(笑)に対応する、そして、後期研修、専門医と年数が上がってきた方々との討論では、議論の中で、相手の成長を推しはかりながら、時には厳しい返しを織り交ぜていくように心がけています。



—— 医師を目指す方や若手医師にメッセージをお願いします。

岡崎 医師 若い方々それぞれに御自身の理想とする医師あるいは医学者としての未来像があると思います。医療は医学というサイエンスを基にして成り立っていますので、サイエンスの発展・進歩と並行して生み出される新しい考え方や技術を取り込まなければ、医療も、そして医師としても進歩しない宿命を背負っています。これは、どの分野の医師にも共通しており、このサイエンスの発展・進歩を取り込むためにもっとも大切なものは、「瞬発的な力」より「継続的な努力」であると思います。これを続けられるに足る「意志」の醸成こそが重要です。



プロフィール

岡崎 貴裕 医師

趣味

- ・映画鑑賞(ゴジラ-1.0は最近の一推しです。)
- ・スーパーマーケット(ドラッグストアを含む)の陳列棚の観覧

- 1988年 大阪医科大学(現:大阪医科薬科大学)卒業
- 1996年 京都大学大学院博士課程修了退学
- 1999年 米国National Cancer Institute客員研究員
- 2002年 聖マリアンナ医科大学リウマチ膠原病アレルギー内科助手
- 2004年 同 講師
- 2014年 同 准教授
- 2018年 国立病院機構 静岡医療センター 副院長
- 2023年4月 国立病院機構 静岡医療センター 院長
- 2023年6月 聖マリアンナ医科大学リウマチ膠原病アレルギー内科 客員教授